

1.日時と参加者数：2014年10月4日（日曜日）、10時30分～12時00分、参加者：17人

・港計7名

川崎（委員長）、板倉（事務局長）、板倉、小川、風見、中村、前川

・世田谷10名

杉原、杉原、根岸、二宮、大澤、河島、宇田川、三浦、浅津、山田

2.場所：大蔵地域区民会館

3.内容

(1)交流会の主旨、進行予定確認、双方メンバーの簡単な自己紹介等

(2)世田谷側報告（浅津）

下記資料をもとに今までの騒音問題での機体飛行観測、講演会、世田谷区との情報交換について報告を行なった。

<提出資料>①成城。祖師谷地区での機体観測実績 ②岸本講演会の案内チラシ

③第21回『九条のつどい』気づいていますか 世田谷の空の爆音 <詳細活動報告>[講演会の内容]

④9の日ちらしNo.15 ⑤『空の騒音』について世田谷区環境保全課との情報交換（報告）

(3)港区側報告（川崎）

a.受領した資料

①実行委員会ニュース（2014年第2、3号1版）

②2013.7.31麻布米軍ヘリ基地現地調査・監視行動報告書

③要請書（米国大統領他）

④要請書（港区長）

⑤港区議会議事録2009.7.27「米軍ヘリポート基地に係わる地元アンケート調査及び騒音測定調査の実施結果について」

b.主な報告内容

◆麻布ヘリ基地撤去実行委員会（以降は「実行委員会」と記載）の発足

・1967年以来、麻布米軍ヘリ基地撤去運動に取り組んできている。港区議会も1967年に最初の撤去決議（全会一致）を行ない、その後幾度となく決議を行い、また国や大使館に要請を行ってきた。

◆米軍ヘリの離着陸

・米軍ヘリの離発着の仕方がむちゃくちゃでルール（東京消防庁のヘリは遵守）を守っていない。

高度10m以下で監視行動(2013.7.31)をおこなっていた私たちの頭上を飛んで行ったので監視機材は10数m吹き飛ばされた。また、着陸後にエンジンを止める規則（5分以上駐機時はエンジン停止）も守っていないため1時間以上も騒音をまき散らしていることがある。離着陸を規則通りに正しくせよと言っている。

◆港区の騒音調査

・2008年の区が250m離れた場所で測定した騒音は90dB、防衛省は「環境基準」に適合しているとして国としては、騒音調査は行わないと言ったが、区の測定は甘い(2013.7.31の実行委員会での調査では102.5dB)。国の責任でやりなさいと言っている。

◆定期便運行

・横田基地には空軍のトップがあり、麻布ヘリ基地の間で要人移動用に定期便を運行している。その他座間基地等首都圏米軍基地との間をヘリが飛行している。

◆騒音問題での連帯

・騒音問題は港区だけの問題ではない。騒音問題では(どこの地域も)利害は一致。10月25日横田での集会に参加する。

・麻布米軍ヘリ基地撤去運動と世田谷をはじめとするその影響下にある各地の運動が連帯する、「連絡会(仮称)」を目指したい。

◆麻布米軍ヘリ基地の名称

・場所は六本木にあるのに麻布というのは、赤坂から移転してきたことや、また旧名は麻布龍土町からきているのではないかと。また、赤坂プレスセンターと言うが星条旗新聞(スターズ&ストライプス)が入っているため。

・米の呼び方は、ハーディ・バラックスという。

<補>陸軍歩兵第3連隊(2・26事件に關与)のあった場所で連合軍に接收された場所。[宇田川談]

◆臨時ヘリポートの不法占拠

・都立青山公園の一部をつぶして拡張した「臨時ヘリポート」部分が都、東京防衛施設局、米軍の1983年に交わした「3者協定」で明記されている期限から21年経過しているが原状回復(返還)されていない。都には毎年4月交渉に行っているが、都側の態度が悪化してきている。

◆米国大統領、駐日米大使他宛の要請書(2014.4.18に基地撤去と撤去までの当面の措置についての要請)について

・米国大統領、駐日米大使宛はメール、Faxともに返事はない。

・外務省は事務官が対応、自分たちには対象外(の問題)と言った。防衛省は本庁<市ヶ谷>に行った(防衛省施設局が六本木にあったが大宮に移転したため)。防衛省には、実行委員会で作成したDVDや資料を持参した。広報官は(駐機時の)エンジン止めなしの状況を認めた。向こうが逃げられない交渉に行きたい。

・東京都は基地対策室だが、皆さん頑張ってとのこと。今度、都議団と話し合う予定がある

◆飛行ルート

・横田と麻布の関係、横田は空軍トップの司令部があって日米交渉ではサンノーホテルにUH-1定期便で要員が行く。

・都の基地対策室もルートの変更については分かりませんの回答。1993年杉並区の中学校に不時着する事故を起こしてからかどうかわからないが、横田から直進して麻布基地を飛ぶと杉並上空を通ることになるが、今は、横田~多摩川沿い~狛江~小田急線沿い~代々木上原~麻布基地のコースで飛行している。

◆騒音測定

- ・データをとって離陸、着着、駐機時の騒音を数量化しグラフにすることができる。測定は飛行している時と、飛行なしの時の両ケースを測定しその差で実績を把握する。

◆汚染

- ・ヘリ騒音の問題だけではない、使用燃料による汚染も問題だ。

(4)世田谷空の問題への取り組みとの関係 - 議論および川崎さんからのアドバイス

◆ヘリの飛行実態

- ・詳細な飛行頻度、飛行ルートを掌握することは難しい。
- ・都はヘリの飛行実態を未掌握である（掌握しようとしなない）

◆ヘリの飛行にともなう騒音の測定

- ・港区では各支所に騒音計を置き、貸し出し可能である（一定の精度を保証する製品であることが必要）
国の基準、WHO 基準に照らして区に環境保全対策をとらせることが考えられる。
- ・観測の実績を把握し、病院や学校などの上空を飛ばすと言え。防衛省は、学校の行事などを教えてくれと言っているので配慮する面はありそう。

(5)今後の展望に関する確認事項 - 今回の会合の合意

根底に日米地位協定がある。究極の目標は基地を撤去して問題の根源を絶つことであるであるが、そこに至る過程で、これまで成城祖師谷の会が行ってきたような事実にもとづく地道な活動を発展し継続することが重要である

以上